

[3]

内田定雄氏

在勤各地における主要事件の回顧

N-0049

0131

昭和十四年一月
特輯第六號

内田定槌氏述

在勤各地ニ於ケル主要事件ノ回顧

秘

外務省調査部第二課

A 1 3
195
T 196
21 5 7

第調外
一査務
課省
局

A13
T196

S 12.2.1.0-1

143

N-0049

0132

内田定槌氏述

在勤各地ニ於ケル主要事件ノ回顧

外務省調査部第一課

S 12.2.1.0-1

144

N-0049/

0133

市薩各職、領、主、要、事、務、の、回、應、
内田、安、藤、汎、航、

略 歷

内田定礎氏ハ慶應元年福岡縣小倉ニ生レ、明治二十二年外務省ニ入
リ、上海、京城、紐育ニ在勤シ、特命全權公使兼總領事トシテ「ブ
ラジル」國駐劄、特命全權公使トシテ瑞典國駐劄、特命全權大使ト
シテ土耳其國出張ヲ經テ大正十三年四月退官セラレタリ

四十一年、アヒヤニノ東新
四十三年、アヒヤニノ西新
四十三年、アヒヤニノ南新
四十三年、アヒヤニノ北新

四十五 年 スエーデン
大正六年 ランマーク 第廿
十二年 トルコ

8 12.2.1.0-1

145

主 要 参 考 书 籍

7101

151

君ハ最初カラ事件ノ真相ヲ知ツテ居ルヤウダカラ、スツカリ其ノ
末ヲ書イテ本省ニ報告シテ呉レ」ト言ツタ。スルト堀口君ハ達筆ナ
ノデ直グ長イ報告書ヲ書イテ、特使デアツタカ郵便デアツタカハツ
キリ記憶シナイガ兎ニ角本省ニ送ツタ。

是ヨリ先キ、井上公使ハ熱心ニ朝鮮ノ内政改革ヲヤル憤リデアツ
タガウマク行カズ業ヲ煮シテ歸ツタノダガ、日本へ歸ツテカラ時ノ
内閣ニ朝鮮改革ノ必要ヲ力説シタ。是カラ朝鮮ハ日本ガ育テ、ヤラ
ナケレバナラヌ、内政改革ナドモ日本ノ力デヤラナケレバナラヌ、
朝鮮ヲ戦場トシテ日清兩國ガ戦ツタノダガ、朝鮮ハソレガ爲ニ非常
ニ迷惑シテ居ルノダカラ其ノ賠償モシテヤラナケレバナラヌ。料亭
デ喧嘩ヲシテ候ヲ破ツタリ器物ヲ壊セバ幾ラカ弁償モシナケレバナ
ラヌノト同ジヤウニ、朝鮮ニモ相當ノ金ヲヤラナクテハナラヌト言
ツテ、何百萬圓カノ金額ヲ明示シテ政府ニソレヲ支出サセル憤リデ
其ノ話ヲシテ居ル間ニ、突然昨夜王城ニ變アリ云々ノ電報ガ來タノ

處分ヲ受ケテモ仕方ガナイノニ、在留禁止ヲ濟メバ非常ニ有難イト
言ツテ喜ビ、其ノ他ノ壯士連モ皆有難ク在留禁止命令ヲ御受ケシタ
安達謙藏比ナドモ矢張り此等壯士連ノ首領株ダツタガ、ソレ等ノ連
中ハ皆公使館ノ人々、陸軍々人等ト一緒ニ京城ヲ立ツテ仁川カラ船
ニ乗ツタ。船ノ名前ハ忘レタガ、皆大イニ手柄ヲ立テ、。綱草デモ
貰ヘル横リダツタラウカ、喜ビ勇ンデ内地ヘ向ツタ。トコロガ字品
ヘ着クヤ台ヤ皆縛ラレテ牢ニ入レラレ、廣島地方裁判所デ裁判ヲ受
ケルコトニナツタ。

廣島デ王妃殺害事件ノ公判ガ進行シテ居ル間ニ、朝鮮國王ハ王宮
ヲ脱出シテ露國公使館ニ逃ゲ込シタ。ソレハ露國公使館員ガ朝鮮宮
内官ト通談シテヤツタ仕事デアツタ。ソレカラ又一「アメリカ」ノ宣
教師ト朝鮮人ガ一緒ニナツテ日本黨ノ人々ヲ暗殺スル陰謀ヲ企デタ
ガ、ソレハ朝鮮政府ノ當局デ皆犯人ヲ逮捕シ處分シテシマツタ。サ
ウ云フ事件ガ次カラ次ニ起ツタノデ日本ノ方デモ、露國人ヤ米國人

朝鮮國王ハ王宮ヲ脱出シテ露國公使館ニ逃ゲ込シタ。ソレハ露國公使館員ガ朝鮮宮
内官ト通談シテヤツタ仕事デアツタ。ソレカラ又一「アメリカ」ノ宣教師ト朝鮮人ガ一
緒ニナツテ日本黨ノ人々ヲ暗殺スル陰謀ヲ企デタガ、ソレハ朝鮮政府ノ當局デ皆犯人ヲ
逮捕シ處分シテシマツタ。サウ云フ事件ガ次カラ次ニ起ツタノデ日本ノ方デモ、露國人
ヤ米國人

ガソシナ陰謀ヲ企テル空氣中ニ於テハ日本人ノ犯罪ニ限り嚴重ニ檢
 舉スル政策ヲ執ル必要ハナイト云フヤウナ議論ガ起ツテ來タ。ソレ
 ニ又一方朝鮮當局ノ方デモ王妃殺害事件ノ審理ヲ逐ゲタル處王妃殺
 害者ハ朝鮮人ノ何某ト決定シ既ニ死刑ニ處セラレタカラ、日本ノ裁
 判所ガ本件ヲ審理スル必要ハナイト云フ理由デ被告人ハ一同無罪放
 免ニ決定シタ。

併シ當時私ハ非常ニ苦シイ立場ニ在ツタ。ソレト云フノハ領事タ
 ル私ハ廣島地方裁判所ノ囑託ニヨリ豫審判事ノ職ヲ勤メナケレバナ
 ラナカツタ。本件ノ關係人ハ公使館員始メ壯士ノ連中モ皆平素私ノ
 知ツテ居ル人々デ、ソレ等ノ人々ノ犯行ヲ一々調査シナケレバナラ
 スノニハ私モ大變困ツタ。併シ領事館巡查ノ中一番朝鮮語ガ上手デ
 最初カラ事件ニ關係シテ居ツタ渡邊鷹次郎巡查ダケハ内地ヘ歸サナ
 カツタノデ、廣島裁判所ノ依頼ニ依ツテ取調ラスル時ニハ、其ノ巡
 査ニ命シ王城内ノ實地ヲ調べサセテ報告シタコトモアル。

日本ニ最負シテ呉レナカッタ。同新聞ハ米西戦争中自國ノ政策ニ反對スル唯一ノ新聞デアッタガ日露戦争中ハ其社説ニ於テ反日態度ヲ採ツタ唯一ノ新聞紙デアッタ。段々調べテ見ルト、其ノ社主ハ米國人デアルケレドモ平素巴里ニ居住スル獨身者デ米西戦争ノ時ニハ西班牙人ノ妾ヲ抱ヘ日露戦争中ハ露國人ノ妾ト同様シテ居タガ「ヘラルド」紙ノ社説ハ毎日社主カラ本社ヘ向ツテ電送シテ居タトノコトデアル。

ソレカラ又「アメリカ」人ハ前通ノ通り一般ニ日本側ニ同情シテ居タケレドモ、獨リ日本反對ノ態度ヲ採ツタ者ハ「アンドリユー」。

「カーネギー」ト云フ有名ナ金持ダッタ。當時紐育社交界ニ於テ知名ノ米國婦人連中方在留日本婦人ト共同シテ日本ノ戦死者遺族救助ノ寄附金ヲ募ツタ折リニ私ノ妻ガ「カーネギー」ノ夫人ニモ寄附ヲ依頼シタ所ガ、自分ノ夫ハ此ノ戦争ニ就テハ日本ニ反對ダカラ寄附金ハ出セナイト云ウテ拒絶サレタ。「カーネギー」ガドウ云フ譯デ反

對シタカト聞イテ見レバ彼ハ幼少ノ時「ムコツ」カラム國
ニ渡リ一生ノ間ニ何億弗ト云フ財産ヲ作り、ソレヲ社會ノ爲メ人
ノ爲メニ最も有益ニ使ハウト云フ考ヘカラ色々ナコトヲヤツタガ。
其ノ中ノ一ツハ、國際間ノ紛争ヲ戰爭ヲ解決スル代リニ仲裁ヲ判ニ
依ラシムルタメ「ヘーグ」ニ平和殿ヲ建設シタ。日露間ノ紛争モ此
ノ平和殿ニ持込ミサヘスレバ戰爭ヲセズニ解決シ得ルノニ。日本ガ
突然旅順ヲ攻撃シ挑戰ノ結果斯ウ云フ風ニナツタノデ。是ハ日本ガ
悪イノダ。其ノ悪イコトヲシテ居ル日本兵ガ戰死シテ遺族ガ困ルノ
ハ自業自得ダト云フノデアツタ。併シ日本ニ對シ好意ヲ持ツ一般米
國人ハ前記ノ通り日本ノ勝報アル毎ニ大イニ喜び、殊ニ嶋津江デ我
陸軍ガ始メテ大勝利ヲ獲タ時ニハ、米國知名ノ人々カラ黒木將軍宛
ニ祝電ヲ送ツタ。トコロガ「カーネギー」モ同將軍ヘ電報ヲ發シタ
ケレドモソレハ祝電デハナク日本軍ハドウシテソナニ勝ツノカト
云フ質問デアツタ。陛下ノ御稜威ニ依ツテ勝ツノダト云フヤウニ

ハ、米國ハ、日本ノ勝報アル毎ニ大イニ喜び、殊ニ嶋津江デ我
陸軍ガ始メテ大勝利ヲ獲タ時ニハ、米國知名ノ人々カラ黒木將軍宛
ニ祝電ヲ送ツタ。トコロガ「カーネギー」モ同將軍ヘ電報ヲ發シタ
ケレドモソレハ祝電デハナク日本軍ハドウシテソナニ勝ツノカト
云フ質問デアツタ。陛下ノ御稜威ニ依ツテ勝ツノダト云フヤウニ

[illegible]

アツタ。外債募集ノ使命ヲ帶ビ米國ヲ經テ英國ヘ行ツタ故高橋是清氏ハ英國ノ「ユダヤ」人ヲ枯手ニシテ募債ニ成功シタガ、其ノ時ニハ矢張り米國ノ「ユダヤ」人モ一緒ニナツテ協力シタカラ募債ガ出來タノダ。

右ノ公債ハ「ロンドン」デ話ガ決マリ、「アメリカ」デハ唯手續
ダケノコトダツタガ、私ハ紐育デ其ノ證書ノ印刷方ヲ擔當シタダケ
デアル。近頃盛シニ内外ノ市場デ賣買サレテ居ル米貨公債證書ハ私
ガ「デザイン」シテ「アメリカンバンクノート」會社ニ命シ印刷サ
セタモノデアル。

「ブラジル」國在勤當時
家族移民ノ創始

私ガ紐育ニ居ル頃カラ既ニ日本移民排斥ノ氣運ガ萌シテ居ツタ。
ソレデ西部地方デハ日本人ノ受ケガ大變惡クナツタガ、何處デモ排
斥サレルト云フ譯デモアルマイカラ南部ノ方ヘ一ツ行ツテ見ヨウト

S 12.2.1.0.1

162

思ツテ「テキサス」「ルイジアナ」地方へ旅行シタコトガアル。同
地方ニ行ツテ見ルト、日本ノ米ヲ試作シテ成功シテ居ル者ガアツタ。
其状況ヲ調査スルト大分儲カルラン。土地モ廣クアリ、何處ニ井
戸ヲ掘ツテモ水ガ出ルノデ、ソレヲ成ンデ灌溉出來ル。是ハ「ルイ
ジアナ」ノ「ドクター」ナツ「ガ」日本へ來テ米作ヲ研究シテ歸ッ
テ「ルイジアナ」ト「テキサス」ノ兩州ヲ始メタモノダガ、ソレヲ
見タノデ私ハ米作ノ爲メ日本人ヲ入レテ見ヨウト企テタ。當時其事
ガ日本ノ新聞ニ出タノデ一番最初ニ大西理平ト云フ時事新報ノ記者
ヤ西原清東（元京都同志社々長）ト云フ人達ガヤツテ來タカラ、私
モソレ等ノ人々ト共ニ現地ヘ行ツテ土地ヲ買フ世話ヲシテヤツタ。
其後他ノ連中モ後カラ續々米作ノ爲メ渡來シタ。此等ノ人々ハ最初
三三年間ハ土地ノ買入又ハ借入レ等自由ニ許サレ日本内地ノ米作ニ
比シ數倍ノ利益ヲ得タ者モアツタガ、其ノ後矢張り南部地方ニモ日
本人排斥ノ氣運ガ及ンデ來テ、日本カラ労働者ヲ呼ンデ働カセルコ

其ノ後伯國政府ノ財政上ノ都合デ渡航費ノ補助ガ出來ナクナツタノ
デ、ソレ以後ハ日本側デ補助シテヤルコトニナツテ今日ニ至ツテ居
ル。

四、瑞典國在勤當時

獨逸公使ノ接近

次ノ任地ハ瑞典ダツタガ、同國ニハ明治四十五年カラ世界大戰ノ終リニ近イ頃迄在勤シタ。

S 12.2.1.0-1

168

ル考ヲ抱キ、瑞典駐劄御選公使「パロン。ルシヤス」氏モ亦「スチ
 シネス」氏ト前後シテ數回私ニ面會シ、若シ日本ガ此際御選ニ加擔
 スルナラバ南洋諸島ハ日本ニヤツテモ宜イナド言ツタコトモアツ
 タ。私ハ此等御選人ト面會ノ願末ヲ一々本省ニ報告シテ置イタカラ
 何カノ參考ニナツタコト、思ハレル。

五、土耳其國在勤當時

土耳其ニハ大正十年カラ二年半バカリ在勤シタ。

日土關係ハ從來極メテ良好ダツタ。土耳其ガ末帝政デアツタ時
 代ニ同國皇帝ハ日本トノ國交親善ヲ計ルタメ海軍ノ將目「ラスマン
 パシヤ」ヲ使節トシテ日本ニ特派シタ。同使節ガ其使命ヲ果シ歸國
 ノ途中不幸ニシテ其乗艦「エルトグルール」號ガ紀州沖ニ於テ沈没
 シ同使節ヲ始メ乗組員ノ大部分ハ溺死シタ。當時我政府ハ軍艦二隻
 ヲ土耳其ニ派遣シテ其生存者ヲ本國ニ送還シタ。ソレガ因ニナツテ
 土耳古人ハ非常ニ日本ヲ德トシテ居ル。

土關係ハ昔日ト異リ俄カニ好轉シタケレドモ、土耳其人ハ心カラ露西亞人ガ好キナノデハナイシ、露西亞人モ亦土耳其人ガ好キナデハナク唯一時的ナ接近デアルカラ其親善關係ハ何時變化スルカモ知レナイ有様デアル。然ルニ露西亞ヲ將來ノ假想敵國トスル我國ニ於テハ黑海通航ノ要路タル「ボスホラス」及「ダーダネルス」兩海峡ノ鎖鑰ヲ握ル土耳其トノ親善關係ヲ維持増進スルコトハ我國策上頗ル肝要ト思ハレル。

S 12.2.1.0.1

173